

》経営資源(インプット)

当社グループの強みである「多数の技術者からなる人材力」、「豊富な実績や経験を通じて蓄積した技術力」、「リーディングカンパニーとしてチャレンジする企業文化」の更なる強化に向けて、「人的資本」、「知的資本」などの経営資源の充実に努めています。



人的資本※

グループ全体の従業員 **2,067**名
有資格者 **1,264**名

※持分法適用会社を含む

当社グループの持続的な成長のためには、「人財」である従業員の技術力の向上が不可欠です。特に公共事業の受注には、経験豊富な有資格者が求められており、高度な専門性を有する多数の技術者が必要となります。当社グループでは自律的なキャリア構築の支援や育成のために、従業員が異動希望や能力開発について所属部門の責任者と面談をする「自己申告制度」があります。この制度を活用し、適性に応じたジョブ

ローテーションや適切な人材配置を行っています。また、関連資格の取得をはじめ、研修やセミナーの受講への支援も積極的に行っています。こうして深めた従業員一人ひとりの専門性が当社グループの高い技術力の源になっています。

有資格者 (2024.3.31時点)	
	人数
技術士	173
一級建築士	49
1級土木施工管理技士	744
1級建築施工管理技士	134
建設業経理士1級	21
建設業経理士2級	143
合計	1,264

→人材に関する取り組みについてはP.63-68参照



知的資本

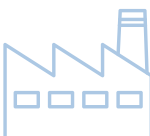
特許保有数 **182**件
研究開発費 **4**億円

当社グループは、時代に先駆けて、様々な建造物を数多くつくりあげてきました。1955年に手掛けた西海橋は、固定アーチ橋としては日本初の長大橋です。また、1968年に手掛けた霞が関三井ビルディング(現 霞が関ビルディング)は、日本初の超高層ビルです。更に、世界初の3連吊橋の来島海峡大橋や、当時世界最大の支間長を誇る明石海峡大橋など、橋梁のリーディングカンパニーとして、日本初、世界初へのチャレンジを行ってきました。

こうした豊富な実績や経験を通じて蓄積された技術力の更なる高度化に向けて、総合技術研究所や各事業会社が連携し、大学や研究機関との共同研究などを通じて、研究開発に注力しています。

共同研究の実績 (2024.3.31時点)		
期間	参加者	研究題目
2012.11 ~2024.3	日本製鉄、横河ブリッジホールディングス、横河NSエンジニアリング	橋梁その他構造物に使用する伸縮装置に関する研究
2013.3 ~2015.3	ジオスター、横河NSエンジニアリング	大断面カルバート頂版構築用鋼・コンクリート合成埋設型枠の開発
2013.12 ~2016.3	横河ブリッジ、首都高速道路、川田工業、川田建設	既設RC床版の急速施工更新技術に関する研究
2014.4 ~2015.5	安藤・間、横河NSエンジニアリング	大深度地下道路分合流部セグメントの開発
2014.12 ~2017.3	阪神高速道路、阪神高速道路技術センター、ワイ・シー・イー、横河ブリッジ	閉断面リブ鋼床補強の構造改善に関する共同研究
2015.9 ~2016.12	東京大学、横浜国立大学、前橋工科大学、横河ブリッジホールディングス	鋼橋RC床版の高耐久化を実現するための高炉スラグコンクリートの性能評価
2015.12 ~2019.3	日本製鉄、ジオスター、横河NSエンジニアリング	鋼・コンクリート複合構造防潮堤の開発
2016.4 ~2019.3	日鉄エンジニアリング、横河NSエンジニアリング	中小スパン橋梁の構造提案および架替更新技術に関する研究
2016.4 ~2021.3	横河ブリッジ、オックスジャッキ	落橋防止機能付きバウダンバーに関する研究
2017.4 ~2021.3	横河ブリッジ、オックスジャッキ	橋軸方向耐震設備(グリッパ)の開発
2017.7 ~2019.7	横河ブリッジ、首都高速道路	既設RC床版更新における床版接続部の構造及び施工法に関する研究
2018.2 ~2022.3	日本製鉄、横河NSエンジニアリング	既設RC床版橋梁の急速更新用鋼床版構造に関する研究
2019.4 ~2021.3	横河ブリッジ、日軽エンジニアリング、横河ブリッジホールディングス	アルミ合金製常設足場cusa(キューサ)の床パネル支間延長に関する研究
2019.4 ~2022.3	横河ブリッジ、日軽エンジニアリング、横河ブリッジホールディングス	アルミ合金製常設足場cusa(キューサ)の裏面吸音機能に関する研究
2019.7 ~2023.3	東京地下鉄、横河NSエンジニアリング	鋼製橋座型支承板を有する新型鋼管柱の製品開発
2019.11 ~2023.3	横河ブリッジ、エコモット	AIによる高力ボルト締付け管理システムの開発
2020.4 ~2025.3	神戸大学、東亜合成、横河ブリッジホールディングス	鋼素地面の脱塩方法に関する研究
2020.9 ~2021.3	横河ブリッジ、大阪府立大学	高減衰構造体の減衰評価手法の開発
2021.4 ~2024.3	横河ブリッジ、大阪公立大学	高減衰構造体の開発
2022.10 ~2024.3	横河ブリッジ、ソーキ	上部エワンマン測量システム「オートレボ」の開発
2024.4 ~2025.3	長崎大学、横河ブリッジ、横河ブリッジホールディングス	海外における鋼橋の耐久性向上技術に関する研究

→研究開発に関する取り組みについてはP.61-62参照

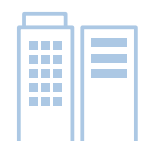


製造資本

生産拠点 **7**箇所
主力工場の生産能力
大阪工場 **60,000**t/年
千葉・茂原工場 **90,000**t/年

当社グループでは、橋梁部材などを製作する大型工場などの自社の生産拠点をもち、製作部門の従業員や熟練の職人が、部材の加工、組み立てを行っています。

主力工場である大阪工場は、堺・泉北臨海工業地帯に位置し、最新鋭の設備を有する工場として各種大型



社会関係資本

受注高 **1,457**億円
販売施工代理店 **1,300**社超
(システム建築「ビルダー加盟店」)

橋梁事業では、これまで培ってきた信頼関係をベースに、国土交通省や地方自治体、高速道路会社、民間企業などの様々な発注者より、新設工事、保全工事、海外工事を受注しています。

エンジニアリング関連事業のシステム建築事業で



財務資本

(2024.3.31時点)
株主資本 **1,180**億円
有利子負債 **285**億円

100年の耐久性が求められる橋梁の施工者としての事業継続を裏付けるため、資本政策は「財務の健全



自然資本

(2024.3.31時点)
電力消費量 **2,469**万kWh
鋼材使用量 **11.2**万t

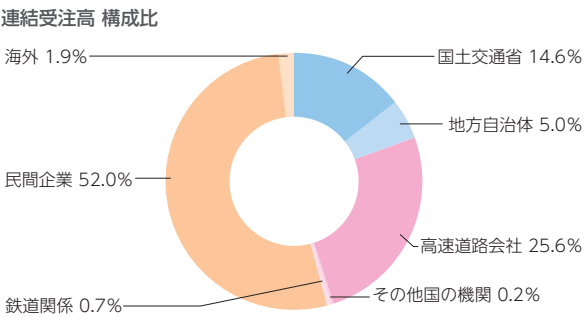


大阪工場

鋼構造物の生産を担っております。

エンジニアリング関連事業では、業界で唯一のシステム建築専用工場(千葉工場、茂原工場)をフル稼働し、システム建築の分野における更なるシェアアップを図っています。
→拠点についてはP.117参照

は、全国1,300社を超えるビルダー加盟店との連携により、顧客開拓と販路拡大に注力しています。



性と資本の効率性の両立」、株主還元は「累進配当と機動的な自己株式の取得」をそれぞれ基本方針として、財務の健全性の確保を図っています。運転資金と設備投資資金はフリー・キャッシュフローおよび間接調達で確保するとともに、コミットメントライン契約などにより財務の安定性および流動性を補完しています。

→財務情報についてはP.111-116参照

当社グループでは、国内事業場における資源やエネルギーの使用量を定量的に把握し、精査することで効率的な資源の利用に努めています。

また、再生可能エネルギーの活用、環境に配慮した製品や工法の開発に積極的に取り組むことで、環境負荷低減を推進していきます。

→環境に関する取り組みについてはP.75-82参照